

第 5 期 練馬区循環型社会推進会議

ま と め

平成 2 2 年 3 月

練馬区循環型社会推進会議

目 次

はじめに	1
1 練馬区における現状と今後の課題	2
2 統計から見た清掃とリサイクルの推移	3
3 「練馬区リサイクル推進計画」の改定について	4
4 委員の感想	6
5 練馬区循環型社会推進会議（第5期）開催状況	17
6 練馬区循環型社会推進会議（第5期）委員名簿	18

はじめに

練馬区循環型社会推進会議（以下「推進会議」という。）は、練馬区リサイクル推進条例（平成11年12月練馬区条例第55号）第21条第1項の規定に基づき、区長の附属機関として設置されていて、現在、平成20年7月に発足した第5期推進会議が活動している。

23区および東京二十三区清掃一部事務組合は、平成20年度から廃プラスチックの熱回収（サーマルリサイクル）の実施を決定した。ただし、廃プラスチック類の資源化については、各区の判断に委されたので、資源とごみの分別方法は各区によって異なり、全ての区で資源化が行なわれているわけではない。

練馬区においては、埋立処分場の延命化に加え資源の有効活用の観点から、法に基づく容器包装プラスチックも資源回収することとして、23区での決定事項である廃プラスチックのサーマルリサイクルを平成20年10月から実施している。

こうしたことにより、不燃ごみについては大幅な削減を実現している。

推進会議では、ごみの発生抑制やリサイクルの推進についての具体的な実行計画を定める「練馬区リサイクル推進計画」の改定について審議を行った。

改定内容として、今後5年間についての各事業を「重点的な取り組み」と「継続する取り組み」とに分けて検討した。審議にあたっては、各委員が様々な角度から意見を出し合い、審議を進めた結果、平成21年3月に、平成21～25年度の「練馬区リサイクル推進計画」を策定することができた。

ここに第5期推進会議の活動をまとめたので報告する。

練馬区循環型社会推進会議

会長 向山 巖

1 . 練馬区における現状と今後の課題

区では、「練馬区長期総合計画」の環境分野を担う計画として、平成5年に「練馬区環境基本計画」を策定し、「環境保全型都市・練馬」を目指して、総合的な環境施策を進めてきた。

また、平成8年には、「練馬区環境基本計画」のリサイクル部門の個別計画として、「練馬区リサイクル推進計画」を策定した。その後、「練馬区廃棄物の処理および清掃に関する条例」および「練馬区リサイクル推進条例」に基づき、それぞれ「練馬区一般廃棄物処理基本計画」の策定と「練馬区リサイクル推進計画」の改定を行った。

ごみ処理やリサイクルにおいて、一人ひとりが環境に負荷を与えない循環型社会を構築していくための取り組みとして、3Rを推進する様々な活動を推進しているところである。

区では、平成20年10月から、これまで「不燃ごみ」として埋め立て処分をしてきたプラスチックごみを、最終処分場の延命化および資源の有効活用を図るため、分別変更を実施した。プラマークのついた容器包装プラスチックは資源として回収し、容器包装リサイクル法の対象外のプラスチック製品、ゴム・革製品は可燃ごみとして収集を始めた。

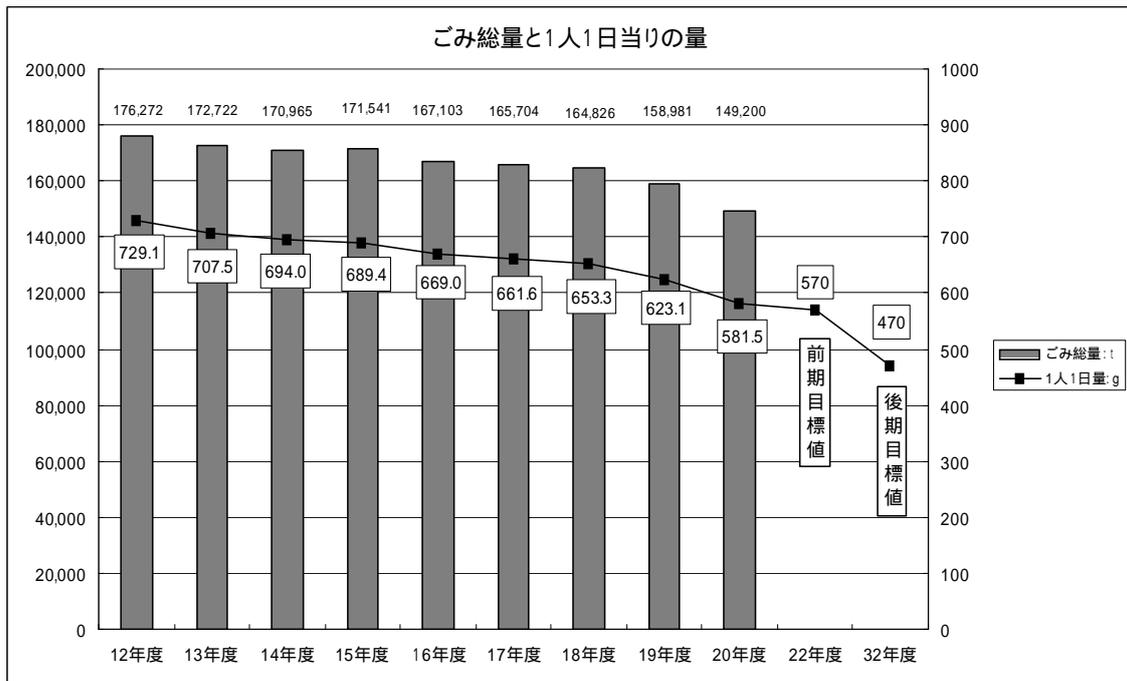
こうした分別変更により、ごみの排出量は着実に減少してきており、また、資源についても分別の意識・啓発につながり、びん・缶、ペットボトルなどの回収量は増加傾向にあり、一定の成果をあげてきている。

循環型社会の形成に向けて、“ごみ半減”をめざした「練馬区第2次一般廃棄物処理基本計画」では、平成16年度を基準として、区民一人1日あたりのごみ量を、平成22年度までに15%削減し、平成32年度までに30%削減することを目標としている。

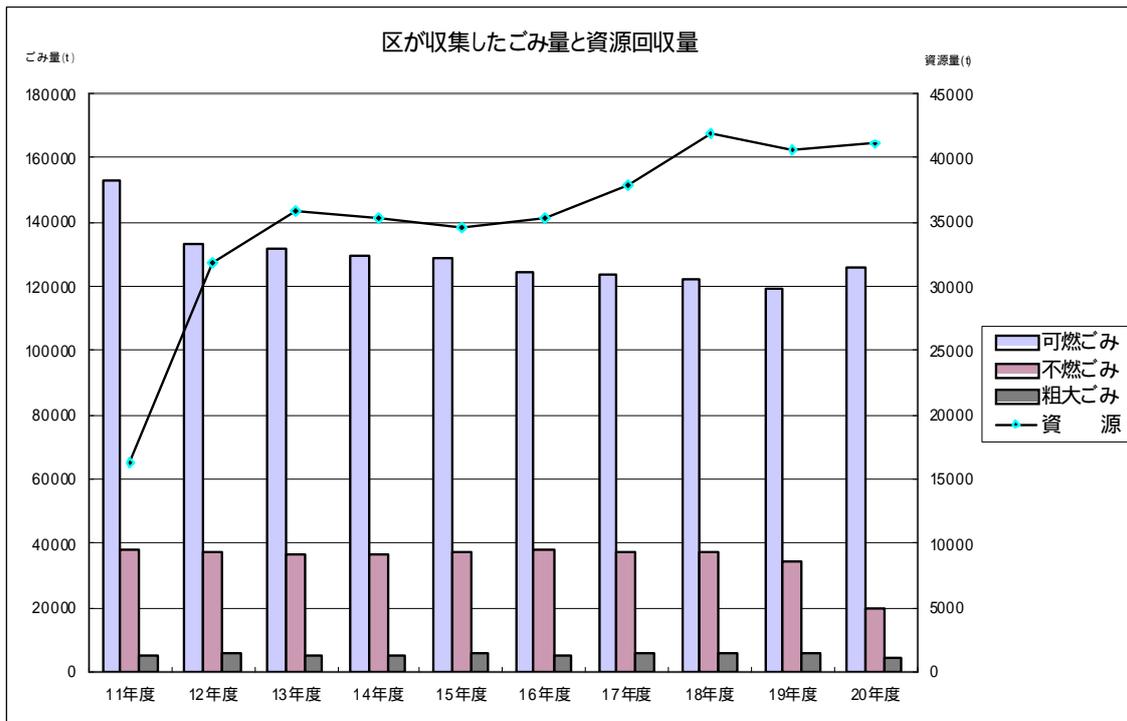
平成22年度までの目標値は達成できる見込みであるが、平成32年度までの目標を達成するためには、より一層ごみの発生抑制を図り、区が区民・事業者と連携して従来の大量生産・大量消費、大量廃棄型のライフスタイルをよりごみの減量を意識したものに変わっていく必要がある。

また、今後は、負担の公平および住民の意識改革を進めるため、ごみ減量の有効な方法の一つとされている、家庭ごみの有料化を含めて幅広い視点からの検討が必要となってくる。

2. 統計から見た清掃とリサイクルの推移



ごみの総量は、平成 15 年度に不燃ごみの量が増えたことにより、前年度を上まわったが、その後は毎年減少している。なお、区民一人あたりの年間排出量も減少している。



平成 20 年 10 月から実施した分別変更で不燃ごみを大幅に減少させることができた。資源回収量も容器包装プラスチックを資源としたことにより、前年度を上まわっている。なお、古紙は新聞の販売店回収の実施や、購読者数の減により減少傾向にある。

3. 「練馬区リサイクル推進計画」の改定について

区の一般廃棄物処理基本計画は、廃棄物処理法に基づく法定計画であり、また、リサイクル推進計画は、区のリサイクル推進条例に基づいて策定されている。

この2つの計画の位置づけは、「練馬に循環型社会システムを実現し、人と環境が共生する都市をつくる」ことを基本理念とし、区の清掃・リサイクル事業を推進するため、一般廃棄物処理基本計画で目標を定め、一般廃棄物処理基本計画における「ごみの発生抑制」や「リサイクル」の目標達成に向けた実行計画と位置づけている。

なお、リサイクル推進計画は3年ごとに見直しを図ることとしており、今回見直しがなされた。

そこで、今回の見直しにおいては、今後、5か年で指標の達成をめざす「重点的取り組み」を新たに設定し、また、前計画の内容を継続する「継続する取り組み」についての見直しについて審議した。

(会議における主な意見)

「計画期間の見直し」について

重点的取り組みを5年とするのは、長いように思う。重点項目は3年計画とし、残りの2年間で何をするかを検討したほうが望ましい。

【一般廃棄物処理基本計画に合わせて取り組むとした】

5年計画の中で、取り組みは流動的に変わることもあり、達成できないこともある。だからこそ、時間をかけて進めていくべきである。

【主旨を踏まえて改定した】

5年ごとに抜本的に見直していくことは、着実に計画を進めていく意味で意義のあることである。

【主旨を踏まえて改定した】

「重点的取り組み」について

落ち葉のリサイクルについて、「みどり30」の計画には入っているが、「リサイクル推進計画」の項目にも盛り込む必要がある。

【次期の改定での検討課題とした】

集団回収の登録団体数や、エコパートナーショップ制度の検討の中で、何店舗と協定を締結するなど具体的に目標値を入れることが望ましい。

【数値目標は検討課題とした】

「継続する取り組み」について

マイバック持参の普及拡大を図るために、事業者側の取り組みを項目に盛り込んでいくべきである。

【計画に反映した】

区民・事業者・区の交流とネットワークづくりの中での目標の懇談会の開催は、ホームページ上に掲示板を作るなど、区民・事業者が意見を書き込み、交流が進んだ中で懇談会を開催するという仕組みづくりの工夫が必要である。

【今後の検討課題とした】

リサイクルセンターなどを活用して、環境学習を展開することは、普及・啓発を進める上で大事なことである。

【計画に反映した】

「平成 19 年度リサイクル推進計画進捗状況について」

子どもへの環境教育は、ベルデ（少年自然の家）等を利用し、体験学習を行うなどして、生活の中でごみを減らす、リサイクルしよう、との意識を持てるようにしていくことが重要である。

【まずは、学校において実施することとした】

区民・事業者・区の三者による情報交換や協議の場づくりのところで、区民がリサイクル活動に参加しやすい環境づくりを進めていく必要がある。

【主旨を踏まえて進める】

環境・3Rへの関心が低い区民への働きかけは、特に重要だという認識のもとで、議論をしていくことが大事である。

【主旨を踏まえて反映している】

「平成 20 年度リサイクル推進計画進捗状況について」

生ごみ処理機のアンケートを実施したことは、大変評価できる。今後も、継続して実施をしていくことが望ましい。

【今後の検討課題とした】

ISO14001 取得により、仕事内容は効率化できたが、費用対効果の点では、アンバランスな面もあり事業者の費用負担が重い。

【今後の検討課題とした】

昨今の動きをみても、集団回収リサイクルはこれまでのやり方では大幅な推進は見込めないと思う。集団回収を安定的に継続していくために、事業者への支援策を含めて考えていくべきである。

【今後の検討課題とした】

4 . 委員の感想

第5期 循環型社会推進会議に参加しての感想を委員の方々に提出していただき掲載しました。

(向山会長)

第7回の会議において「平成20年度の計画事業の進捗状況について(総合評価)」(以下、「資料」という)の事務局の報告に対して、席上、委員から評価基準にかかわる問題点の指摘があったが、前年度を含めて17年度以降では達成率が上昇していることを評価したい。

そして、今後の最重要の課題として、「資料」2頁の「2 総合的な評価」において述べられているように、区民の進めるごみ減量・資源回収の促進のために、区民が排出者の立場から「ごみ減量とリサイクル活動に取り組んでいけるようなシステムを構築」に積極的に取り組んでいく必要性が強調されているのは賛成である。

その意味で、これからの取り組みのあり方としては、排出者との立場にある区民と行政機関との緊密な協力が不可欠であるが、計画事業の分野によっては、区民が行政をリードするようなシステムの構築も必要である。

例えば、「資料」10頁の の1において、区民が進めるごみ減量・資源回収の促進では、集団回収の登録団体が毎年増えているものの、不況の影響もあると思われるが、回収量が逆に微減してきているのは心配である。無関心者へのリサイクル活動への理解を高めるには、一層の努力が必要である。

15頁では、集団回収への行政の支援が指摘されているが、区民による集団回収の取り組みを一段と強化する対策も検討課題である。

その一環として、集団回収について高い成果をあげていると見られる他区や近隣の自治体の状況について、また、家庭ごみの有料化を実施ないし検討している自治体に対して、今後、視察などを通して検討することが求められよう。

平成18年に制定の「練馬区環境基本条例」では前文において、練馬区も環境汚染、地球温暖化など深刻な環境問題に見舞われていて、「私たち自身の生活や事業活動のあり方」への反省が問われていると述べているが、区民・事業者・区がそれぞれの役割を果たしていくよう施策について一層の充実に努めることを重ねて強調したい。

(永井副会長)

今回の循環型社会推進会議で審議してきた「リサイクル推進計画」に関し

ては、第5回会議の重点項目の絞り込みのように、計画に戦略を立てたこともあって、「リサイクル推進計画」の目標が分かりやすくなり、進捗率の向上につながったと思う。

このことを評価した上で、今後、さらに一步進めていくために、問題点をあげてみる。

1. 「リサイクル推進計画」を策定した当初は、ごみ減量のためにどうすればよいか、特にごみの発生抑制に議論の重点があり、計画化や目標の設定は難しかったが、意味のある議論が続いたと思う。

整理が整い、進捗率に重点が移ると、それに満足して容易なところに流れてはいないだろうか。初心を忘れたくないと思う。

2. 区行政が特に努力をしている事項は進んでいるが、リサイクルの推進は、区行政が直接関与しなくても、関心の薄い人を含めて全体に、自主的に進んでいくことが望ましい。

例えば、小学校4年生へのごみ問題の教育は十分であるが、その後の学年の生徒たちの関心はどうなっているのか知りたい。

審議は、進捗率だけにとらわれず、もっと広く問題点について意見交換ができればよいと思う。

(相澤委員)

一般公募の委員として参加させていただきましたが、練馬区の取り組みが具体的、現実的にわかってきて大変有意義でした。

ごみの新分別方法については、一般家庭(我が家においても)最初は非常にわかりにくく大変でした。そういう家庭、人々がたくさんいたかも知れない中、大変努力されて推進されてきた関係者の皆様に頭がさがる気持ちです。本当にご苦労様です。

委員として最初は何もわからないままに参加し、勉強もし、理解してきたつもりです。限られた時間の中で、よく整理された資料と説明は大変わかりやすかったです。

練馬区の環境保全の取り組みは、前から知っており大変興味を持っていたので、委員として参加して更に興味と各事業の推進に関心を持ちました。前にも増して、ごみ問題、適正処理、社会貢献の重要性について、自分なりの考えを持ち、また少しでも行動をしていきたいと感じたしだいです。

平成21年6月に行った和光市の新倉リサイクルセンターの施設見学が印

象に残っています。集荷されたごみ類がどうなっているかは、我々一般市民は知りようもなく過ぎておりました。

ごみの収集、集荷、運搬、分別、廃棄、再利用というごみ処理の流れの中で、何が課題で何が問題なのかを市民レベルで共有化し、少しでも合理的、経済的にスピードをもって処理されなければ、我々市民の快適な日々の生活はありえないのが実感できたように思います。

あれだけの人々が、手作業で分別・仕分けをしなければならない今の実態を我々市民の全てが理解し、適正分別をしてごみを出すことが、まず一番の重要なことであると認識したしだいです。作業に毎日汗まみれで従事されている人たちに感謝を申し上げます。

また、練馬清掃事務所を改修した後の豊玉リサイクルセンターの施設見学も参考になりました。個人的にも今の仕事上、省エネ、省マネー、省人力化をキーワードとした環境に関わる仕事をしていきたいと考えている関係で、施設見学は極めて参考になりました。

屋上緑化は、経費がかかる関係でアピールしにくい感じですが、少しずつ改善されたらいかがでしょうか。また一年経過した後、対前年比で電気代の推移、光熱水費の削減がこうなったというような事実を練馬区報にでも公表されたらいかがでしょうか。

簡単ですが、参加委員としての感想をまとめてみました。ありがとうございました。

(奥 村 委 員)

- ・これまで、接したことのない異業種の方々、特に売り手の側の方々の意見を聞くことができたととても良かった。
- ・地域で、ボランティア活動を続けておられる方々の発言をお聞きし、自分の住む地域でもこうした取り組みができればよいと思ったが、声をあげるのは中々難しいと思った。今後、私自身の課題でもあると思っている。
- ・練馬区の積極的な取り組みを知ることができて、大変心強く感じた。友人等から他区のごみ問題の実情を聞き、練馬区との違いに驚くとともに、ごみ問題の難しさを改めて感じた。
- ・資源ごみの収集にかかる費用、再利用の実態について、自分がほとんど知らないことに気づいた。これらの費用対効果、環境悪化をくい止めること

に、どのくらい寄与しているのか区民の一層の周知が必要だと思う。
区のホームページも重要だが、区報に目を通している人の方が多く、区報の更なる活用を考えていただきたいと思う。

(金子委員)

容器包装プラスチックの回収事業は、市民として望んでいるものでした。今まで、不燃ごみとして出していたものが、容リプラが資源化され、不燃ごみを出す機会も2~3ヶ月に一回と少量ですんでいます。不燃ごみが、隔週回収に変更されて、集積所をみても減量されている成果が見受けられます。

これにともなって、杉並中継所の利用廃止は近くに住んでいるものにとっては、杉並病の公害は忘れられない環境問題で大きなことです。

また、平成20年6月より練馬区では、廃食用油の回収事業を新たに実施しました。関町リサイクルセンターでは平成10年から学習会を重ね、平成15年から呼びかけ、廃食用油の回収が始まりました。市民の反響もよく、未使用の物の扱いに困っていることも知りました。市民の取り組みが、区の事業になりました。

これからも市民でできるリサイクルの輪を広げ、地域コミュニティーを作っていきます。

(長井委員)

練馬区に移り住んで長くなり、会社も退職して落ち着き、何か住んでいる地区に自分の経験を還元できることはないかと、いろいろとやってきましたが、比較的自分の経験が活かせるのではないかと循環型社会推進会議に応募しました。

会社でもプラスチックのリサイクル関連の調査をしたり、ダイオキシンが問題になった時には、発生の可能性のある材料から他材料に変更する開発をしてきましたので、少しはお役にたてるのではと思っていました。

しかし、参加してみて、生活の場で皆様が活動してこられた中で培われたたものと比べて、はるかに狭い範囲の知識しか持ち合わせていないことを認識させられました。一から勉強をさせてもらいながら、練馬区の実情や、他区の状況等を知ること、区から毎回提供される資料や委員の方の意見を参考に少しずつ知識を広げることができました。

区に恩返しどころか教えていただくことが多く、自分自身の向上に役立たせていただいたというのが正直な感想です。あまりお役に立ちそうにない意

見や質問を数多くさせていただきましたが、少しでも最終のまとめにプラスになってくれればよいと思っています。

今回、一番印象に残ったのは、新倉リサイクルセンターの見学で、20名程度の方がベルトコンベアの両サイドに立たれて、容器包装プラスチックの分別をされているところです。家庭での分別の難しさ（分別したと認識しているだけ）を痛感させられました。

また、容器包装の対象になるプラスチックだけしかリサイクルの対象にならないので、それ以外のプラスチック(ごみ袋を含めて)をより分けなければならない矛盾、その作業の大変さを感じました。同時に、ごみを廃棄する一部の方の常識の無さも理解しました。

今回、会議に参加させていただき個人や家庭で、より分別意識を持って対応するようにしていこうと決意しましたが、やはり周囲への啓発が必要だと感じました。

宮崎県知事という言葉ではないですが、何とかしなければ・・・。

(橋本委員)

私は、ドイツで生活した経験の中で感じた、ドイツ国民の環境意識の高さに驚き、各家庭、個人が生活の中で上手に取り入れている、そのライフスタイルに感動した一人でした。

このような経緯でこの審議会に参加し、練馬区の現状を把握し何かお役に立てないかと考えてまいりました。その結果、区では様々な取り組みに努力され、評価も確実に良い方向にきていることを実感致しました。そして、私自身の生活ももう一度見直す機会にもなりました。

しかし、同時に環境意識はすぐに目に見える方向で改善、向上するものではなく、日本ではまだまだ地道な努力が必要で、定着するまでには時間がかかることも実感致しました。

そして、環境問題は特に様々な分野に関連するもので、この問題を改善するための予算となれば、政治に課題をぶつけなければならないでしょう。ただ、どれ程予算をさいても優先順位の上位だとすれば、予算を増やすべきであるし、いまやこの問題はグローバル化しています。

新倉リサイクルセンターの見学は、「現場を知る」という点において有意義でした。劣悪な環境で作業をなさる方々がいてこそ、私たちの目指すべきものが実現されているという状況は、雇用の問題はあっても決して望ましいとは思いませんでした。しかるべき職種にシフトできる日本を構築してい

くべきだと思いました。

今後は、異なった立場から、この環境問題をごみの削減という課題にとどまることなく、広い分野としてとらえ、政策を考えていきたいと思っています。

(高橋委員)

練馬区環境清掃推進連絡会を代表し委員を拝命し、まもなく2年の任期を終了しようとしています。委員の内訳は、区民・事業者・学識経験者からなり、当然のこととして立場の違いからいろいろな意見が出て、私のような現場で毎日「ごみ問題」に携わるものとして、大いに参考になる意見も多数寄せられました。その意味で、毎回会議に出席すること自体、大いに勉強の機会となりました。

平成18年に策定した「練馬区リサイクル推進計画」の見直しを進め、改定案が平成21年3月に取りまとめられました。これにより平成25年度末までの行動計画が示されました。

区民の一人として、また組織を預かる代表者の立場として、行政と協働し実のあるものに結実させて行くか責任の重さを感じざるを得ません。「継続は力なり」一步一步、一人でも多くの方々と話し合い、協力者を増やしていくことが如何に大切か思いを新たにしている昨今です。

(大島委員)

新分別が始まり、分別に対し、区民サイドでは大きな混乱が起きるのではと予想されていましたが、区の適切な対応により、新分別がスムーズに移行できたことは、評価できることだと思います。

また、練馬区が容器包装プラスチックを分別し、再資源化することを決定した区もあるなか、国の法律からいえば当たり前のこととはいえ、練馬区の環境に対する真摯な姿勢がみられたと思います。

「練馬区リサイクル推進計画」が今回の見直しより「一般廃棄物処理基本計画」と整合性を持つため、期間をずらさざるを得ませんでした。計画のありようと今後の計画の立て方には、中途半端な感じが否めませんでした。

また、会議でも出ましたが、進捗状況の報告、ならびに評価が年度と合わないことなど、委員としてはなじみにくい面もありました。

できる限りごみを減らし、資源を枯渇させないよう、循環させていく社会が未来にとって必要なこととはいえ、現実には再資源化、再商品化しにくい

ものが増えています。

また、ごみが目の前からなくなってしまう、それで良しとしてしまう、出す側の無責任さはまだまだ解決されていません。真の循環型社会構築に向けての課題はいっぱいありますが、この推進会議が少しでも目指す社会のあり方へ、練馬独自のありようも含め、提言をしていけたらよいのではないかと考えます。

(秋 山 委 員)

練馬区循環型社会推進会議には、3期目より練馬区商店街連合会を代表して参加させていただきましたが、事業者の中でも商店はより消費者に近いのではと考え、発言をさせていただきました。

真剣にリサイクルに取り組んでおられる方の意見には、的を得ている大変貴重な事が多く、この会議に参加していなければとても聞くことができない意見でした。

私たちの商店街でも、ノーレジ袋のエコシールなどは循環型社会推進会議に出席していなければ実施できなかったと思っています。

練馬区商店街連合会でも機会あるたびに循環型社会推進会議の話をするのですが、商店街により重きを置く事業の考え方の違いがあり、遅々として進んでいないのが現状ではと思われますが、一つでも多くの商店街が取り組んでいただけるようにこれからも努めたいと思っています。

幸い練馬区のご協力により、平成20年の歳末売り出しの景品として「エコバック」をお客様に差し上げる事ができ、大変喜んでいただきました。

技術が日進月歩の時代だけに、循環型社会も大きく変化することと想いますので、多くのアンテナを張り、柔軟な考え方の下で、地球にやさしく環境に配慮したリサイクルに変わっていくことを切に願います。

先進的な容器包装プラスチック等の練馬区のリサイクルへの取り組みも知ることができたのも、5期目のこの推進会議に参加していたからではないかと考えます。

これからも練馬区は、ごみは資源であるとの考えで、江戸時代の東京に習い積極的に取り組んでいただけたらと思います。

(竹 石 委 員)

第5期推進会議の最中に、資源とごみの分け方と出し方が大きく変わったため、リサイクルに関心を持つ方が、何も変化のなかった時期に比べて多か

ったのではないかと思いました。

そんな中、施設見学会はとても有意義でした。豊玉リサイクルセンターはもともとの建物用途の変更と改修によって生まれ変わったものです。地域に根ざした活動をしていくにあたっては、屋上緑化をはじめとした環境への配慮を前面に打ち出していましたが、改修によって生まれ変わった経緯も、それと同じくらいにアピールしてもいいのではないかと思いました。

容器包装プラスチックの中間処理施設の見学も大変勉強になりました。きれいな状態でないプラスチックはリサイクルにはならない現場を見て、愕然としました。家族に話したところ、やはりプラマークのついたプラスチック製品は、何でもリサイクルされるものだという認識でした。

見学会で大切だと思う点は、委員だけではなく区民にも大事な点であると思いますので、何かの機会にPRする必要があると思います。

リサイクル推進計画に関しては、区民・区・事業者がそれぞれの役割を認識していくことが大事であることを以前から考えていますが、区は役割をよく果たしていると思っています。

練馬区循環型社会推進会議に参加させていただいて何年か経ちますが、この会議に参加していなければリサイクル推進計画の中身を見ることはなかったと思います。中身を説明してもらい、目を通すことではじめてこれだけの事をしているのだとわかります。これから、リサイクル推進計画はもっと細部に入った提案、工夫が迫られることになるとしていますが、事業者・区民はさらに努力が必要であると思います。

環境清掃部のみならず、区役所の各部署との連携も含めて、今後、理想的な「環境都市ねりま」が形づくられていくことを期待します。

(早 崎 委 員)

練馬区循環型社会推進会議には、第4期よりコンビニエンス業界から参加させていただきました。立場柄、他の自治体からの要請もあり、東京都で3箇所、他県で1箇所、審議会の委員として参加しています。その中で、練馬区は腰を据えてしっかりと取り組んでいる姿勢が伺えます。特に環境教育という視点をしっかりと押さえ、取り組んでいることはすばらしことだと思います。

小学校4年生での環境学習では、練馬区ならではのエコ検定制度を設けていってもいいのではないかと思います。

この推進会議でも、意識を再度持ってもらおうという意味で、新倉リサイク

ルセンターへ施設見学に行きましたが、私も何回も立場上行っていますが、改めて発生抑制という部分でしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っています。

(益 田 委 員)

練馬区リサイクル事業協同組合を代表して第3期より参加しています。私もはリサイクル事業をやっており、びん・缶・ペットボトル・古紙を集めています。収集・運搬そして中間処理までが自治体の責務かなと思いますが、どこの区でも、その先の処理に関しては行政と一緒にやっていこうという区がなかなか見受けられません。

例えば、ある自治体では土木の工事などで、いろいろなリサイクル品を使えるような仕組みを作っていますが、なかなかうまくいっていないのが現状です。

我々、民間では経済性が優先されるので、ペットボトルを回収しても海外に輸出してしまいます。そうではなく、今はまだケミカルに比べてマテリアルの方がリサイクル率は高いと思いますが、もっとケミカルでもいいものがあればリサイクルできるようにしてほしいと思います。

地産地消ではないですが雇用対策にもなると思うので、もっと近場で輸出に頼らずにできるものがあれば、行政としてコーディネートしていき若い人たちにも目に見える形でわかるシステムを作りあげてほしいと思います。

(武 田 委 員)

私は、資源回収を行うことでごみの減量にもつながり、資源循環型社会に貢献できると安易に考えてきましたが、今は、環境問題、地球温暖化も踏まえてリサイクル事業を行わなければいけない事態になってきていると認識するようになりました。

自社で環境マネジメントをすることにより、回収時のアイドリングストップや事務所や倉庫での電気の節減等など、二酸化炭素の削減や省エネ対策を考え、事業をしていかなければならないと考えるようになりました。

今までは、経済的に事業を進めることに固執していましたが、少しは社会的にも考えられるようになりました。

(五十嵐委員)

学者・企業・商店会・市民団体・町会・区とそれぞれに違った分野の方々と、意見交換、交流ができ参考になり、皆様がそれぞれの立場で環境問題に真剣に取り組んでいることに刺激を受けました。

また、区的环境への取り組みが思っていたより深く、先に進んでいることに感銘を受け、できれば環境関係については、区側のプロという観点からあまり異動をされないほうが、よりスピーディに進んでいくのではないかと感じました。

また、今後の提案として、せっかく各界からご出席いただいておりますので、時々ひとり3分ずつ位の取り組んでいる課題のプレゼンの時間を入れていただくとより勉強になると思いました。

そして、この会議のまとめを毎回、区民にも情報が流れるシステムができると区民の啓蒙活動にもつながると思いました。

最後に、区の皆様をはじめ、委員の方々には大変お世話になりました。私も私の立場で、これからも環境問題に取り組んで参る所存でございますので今後ともご指導等よろしくお願いいたします。有難うございました。

(庄司委員)

練馬区の「循環型社会推進会議」は、他の区市町村の同種の審議会と比べて議論が活発です。委員の皆様は、日常的にごみ処理・リサイクルの活動に取り組まれている町会・自治会関係の方々、ごみの焼却やレジ袋の削減等のごみ問題に取り組まれているの方々、さらには事業者として委員をされている方々も、区内商工関係の方に加えてごみ処理・リサイクル事業者も参加されており、その幅の広さが審議の内容を具体的なものとし、観念的な議論になることを防いでいるように思います。

また、その方々が日頃の活動の中で区（行政）とコミュニケーションをとっていることが伺え、そのことがその活発な議論が分散せずにかみ合ったものになっていると感じました。

そうした中でも、リサイクルを含むごみ処理に関しては新しい、難しい問題が発生してきます。ごみ処理は「生活の後始末」という性格をもっていますから、問題が発生すると区のごみ処理担当を超えていろいろな部課に係わってきます。その意味ではどうしても「タテワリ」に縛られる区（行政）の担当部課だけでは解決が難しい面があります。会議の場でもそうした状況がありました。私たちがかかわった「練馬区リサイクル推進計画」の中には、

こうしたごみ部門だけでは実施が難しいものが少なからずあります。

区（行政）には、これまでの「タテワリ」の弊害を廃してこうした問題に積極果敢に取り組んで行くことが求められます。それは循環型社会を構築していく上では必須のことですが、この審議会に委員として参加してきた一人として、練馬区にはそのことを大いに期待できると思っています。

（渡辺委員）

環境教育の理解・啓発に努めるため小学校4年生で環境学習を実施していますが、学習指導要領では中学校2年生でも「健康と学習」ということでごみ問題を扱っています。

また、「総合的な学習の時間」では、学校が判断をしてどのような教育課題をとらえるかという教育活動をしています。ここで多くの学校が環境に関する事項を取り上げています。

近隣の農家の方と連携を図ったり、民間の方を呼んで環境教室を開いたりしている学校もあります。全校体制で2年間の研究を行い、昨年度は高松小学校で環境教育を主題とした研究発表を行いました。これについては、公表し学校の取り組みを広く伝えました。

また、全校ではありませんが環境政策課とも連携をして、エコライフチェックや環境作文コンクールについても広く呼びかけ、子どもたちの意識、啓発も図っているところです。

練馬区循環型社会推進会議（第5期）開催状況

回	日 時・場 所	審 議 内 容 等
第1回	平成20年 7月 3日(木) 午前10時～12時 練馬区役所本庁舎5階庁議室	・委員委嘱 ・循環型社会推進会議について
第2回	平成20年10月24日(金) 午前10時～12時 練馬区役所本庁舎5階庁議室	・リサイクル推進計画の見直しについて
第3回	平成20年11月20日(木) 午前10時～12時 練馬区役所東庁舎603会議室	・平成19年度リサイクル推進計画の 進捗状況について
第4回	平成20年12月18日(木) 午前10時～12時 練馬区役所本庁舎19階会議室	・リサイクル推進計画(改定素案)に ついて
第5回	平成21年 3月17日(火) 午前10時～12時 練馬区役所本庁舎20階 交流会場	・リサイクル推進計画(案)について
第6回	平成21年 6月23日(火) 午前9時30分～12時 豊玉リサイクルセンター 多目的室	・施設見学会 【見学場所】 豊玉リサイクルセンター 新倉リサイクルセンター
第7回	平成21年11月10日(火) 午前10時～12時 練馬区役所本庁舎5階庁議室	・平成20年度リサイクル推進計画の 進捗状況について
第8回	平成22年 1月25日(月) 午前10時～12時 練馬区役所東庁舎603会議室	・第5期循環型社会推進会議のまとめ

